

アリヤドリバチ



ホバリングするアリヤドリバチ (*Hybrizon buccatus?*) と警戒するケアリ
アリヤドリバチはケアリの卵に寄生するためにケアリの行列の上をホバリングしながら機を窺っている。ケアリも反撃を加えようと上空を気にしている。(猿江公園)



アリヤドリバチとケアリの対峙
アリの大きアゴは強力なので、簡単には近寄ることができない。



アリの巣付近を飛ぶアリヤドリバチ
ケアリが幼虫を運び出す瞬間をじっと待っているようだ。



校庭のランニングロードで見つけたアリヤドリバチ (黄矢印) とケアリ (白矢印) 2020.6.2
これ以降、校庭では発見できていない。

憧れの虫、アリヤドリバチとの出会いの話は昨年にさかのぼる。2020年6月2日、ちょうどコロナ禍で休校が続き校庭の生き物観察を始めた頃、ランニングロードの上のトビイロケアリを観察していると、近くを飛び回る小さなハチの姿が目に入った。明らかにアリのことを意識して周囲をホバリングしていて、もしかしてこれが「アリの巣の生きもの図鑑」で見た憧れのアリヤドリバチか!?!と興奮した。何とか撮影することができた数枚の写真をもとに、寄生蜂を研究している方に伺ったところ、間違いなく *Hybrizon* 属のアリヤドリバチであること、23区内で見られるとは思わなかったこと、未記載種の可能性もあること、などを教えていただいた。しかし、これ以降は一度も発見することができず、そんなに珍しいならもっとちゃんと観察しておくべきだった…と悔しい思いをした。アリヤドリバチの再発見を密かな目標にしていたが、結局1年間全く姿を見ることができなかった。

再会は突然だった。今年の6月26日、猿江公園のコナラの木の樹液に集まるカナブンやスズメバチを観察していた時、足元にケアリの大行列ができていことに気づいた。何となくそちらに目をやった際、小さくて華奢な虫が飛んでいることに気づき、一気にアドレナリンが出るのを感じた。紛れもなくアリヤドリバチだ!やはりこの江東区にはアリヤドリバチが生息しているのだ!昨年と同じ6月である。この時期がいいのだろうか。

アリヤドリバチはその名の通り、アリに寄生するハチで、アリの幼虫に卵を産み付けることが知られている。アリヤドリバチのようにアリを利用している生物を「好蟻性(こうぎせい)生物」と呼び、近年たくさんの種類が見つかってきているが、いずれも発見が困難であるため、ほとんどの種類の生態がよく分かっていない。アリヤドリバチの産卵行動が初めて記録されたのも、ほんの10年前のことだという。(Konishi & Komatsu, 2010)

猿江公園のアリヤドリバチを観察してみると、終始アリの近くをホバリングしていて、少し近づいていくことはあるが、アリを襲ったりすることはなかった。あくまでも“アリの幼虫”を狙っているよ

うで、アリの巣から運び出されるのをじっと待っているようであった。アリたちも上空を飛び回る敵のことは認識しているようで、アリヤドリバチが近づくと上を見上げて警戒していた。アリに警戒されながら産卵するのはかなりの危険を伴いそうだが、もし産卵できれば安全なアリの巣の中で子を育ててもらえることができるので、アリヤドリバチにとっては最高の産卵場所なのだろう。

残念ながら、今回産卵の瞬間を見ることはできなかった。アリヤドリバチ自体が珍しい上に、アリが幼虫を運んでいる瞬間に出くわすというのはかなり難しそうだ。でも、今回の発見で、専門家も驚くほどの生きものがこんなにも身近な環境に生息していることを知ることができた。ますます生きもの観察が楽しくなってきた。